



じゃがいもずきん
「さきぼう」くん

なかしべつ防災セミナー

「いのちを守る」ために

平成30年2月、政府の地震調査委員会から、根室沖で今後30年の間にマグニチュード8程度の地震が発生する可能性は80%にも達する、という衝撃的な調査結果が発表されました。かつてこの町に震度6弱程度の揺れを起こし、甚大な被害を与えた北海道東方沖地震。あの大地震のマグニチュードは、8.2でした。しかし、あの大地震が起きた季節は、まだ、秋でした。しかし、もしも、次の大地震が、真冬に起きたとしたら…？もしも、雪が降り積もり、地吹雪が舞う中で、全てのライフラインが停止したら…？

東方沖地震から24年が経ちました。また、つい先月、胆振東部地震に伴う大規模な停電が発生し、全道各地に大変な被害が出たところですよ。今こそ、冬の地震の恐ろしさについて学び、必要な備えをすべき時です。

多くの町民のみなさまのご参加をお待ちしています。



開催日時	平成30年11月25日(日) 午前の部9:00~11:30 午後の部13:00~16:00
会場	中標津経済センター(なかもっぶ) コミュニティーホールおよび多目的ホール
対象者	町内在住の方であればどなたでも参加できます。 (小学生以下の参加には保護者の同伴をお願いします)
参加費用	無料
定員	各部100名(定員に達し次第、締め切りとなります。お早目にお申込ください。)
締切	平成30年11月20日(火)
注意事項	午前・午後のいずれかの部のみの参加も可能です。昼食などは各自でご用意ください。
その他	本セミナーの参加者で希望する方には、中標津町地域防災リーダーの認定証を発行して登録します。登録後は、自主防災組織又はその他の団体が実施する訓練への参加や、地域住民に対する防災・減災対策の普及啓発活動などを通じて、本セミナーで得られたことをご活用ください。

講師

ねもと まさひろ
根本 昌宏教授 (日本赤十字北海道看護大学 災害対策教育センター長)

研究分野は薬理学、集団災害医学、避難生活学、災害食学など。特に、寒冷地の避難所・避難生活については、自らも参加する厳冬期避難所展開・宿泊演習を通算8回実施し、極限の冬季避難生活で発生する課題の解決に尽力するなど、『いのちを守る』研究の第一人者。

■セミナー内容 (詳細は裏面をご覧ください)

部	内 容	講 師
午前の部	講 演：厳冬期地震災害に立ち向かうために(仮称) 体験会：『冬の避難所で過ごす』ということ	根本教授
午後の部	演 習：避難所運営ゲーム北海道版『Doはぐ』	

お問い合わせ
申し込み先

中標津町役場 総務課防災係

TEL: 0153-73-3111 (内線:317)
FAX: 0153-73-5333
E-Mail: bousai@nakashibetsu.jp

FAX送信 総務課防災係宛

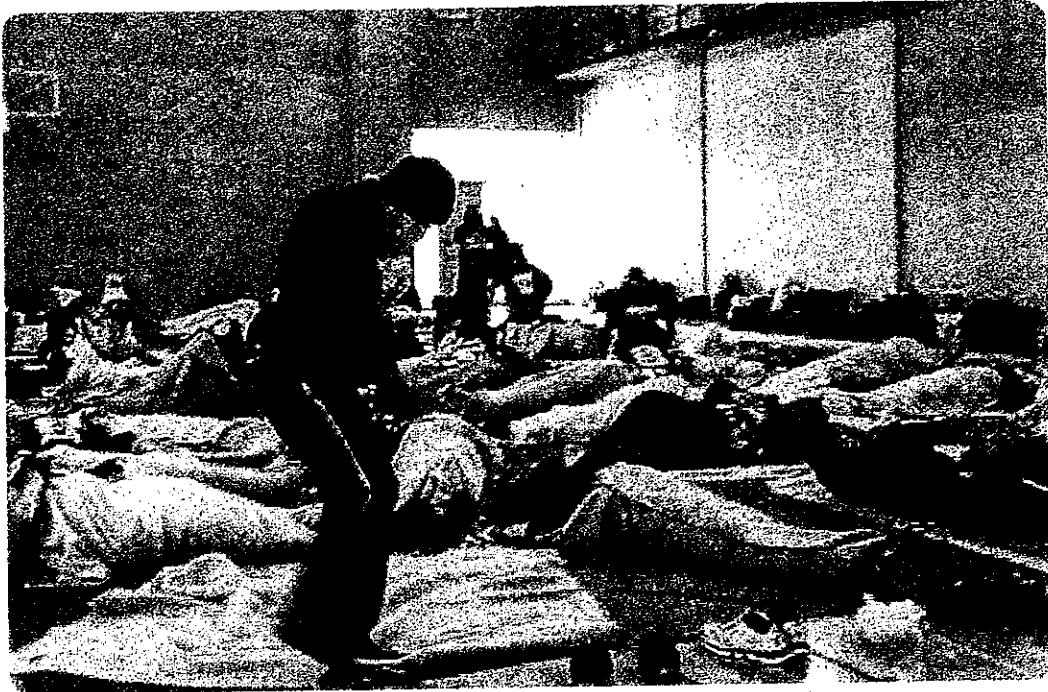
参加者氏名	住 所	年齢	電話番号	参加部(○を付けて下さい)
				午前の部 午後の部
				午前の部 午後の部
				午前の部 午後の部
				午前の部 午後の部

■この講座は、公益財団法人北海道市町村振興協会の助成を受けて実施しています。

午前の部

講演：厳冬期地震災害に立ち向かうために(仮称)
体験会：『冬の避難所で過ごす』ということ

午前の部では、真冬の大地震によってライフラインが全て停止した場合を想定し、必要となる準備や心構えを学ぶことを目的として、根本教授によるご講演と防災用品を利用した体験会を実施します。



体験会実施イメージ(厳冬期避難所展開演習2018より)

○体験会について

体験会では、様々な敷物を敷いた床に横になることで、床の硬さ・底冷えの辛さ・振動の伝わりなどを実際に感じてみるとともに、これらの問題を和らげ、少しでも快適な避難所生活を送る方法などを学んでいただきます。



午後の部 演習：避難所運営ゲーム北海道版(Doはぐ)

○避難所運営ゲームとは？

避難者の年齢、性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所に見立てた地図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応するかを模擬体験するゲームです。

その北海道版である『Doはぐ』では、真冬の北海道で大地震が発生したという想定に基づき、極めて過酷な条件下での避難所運営を体験します。

○『Doはぐ』はどうやるの？

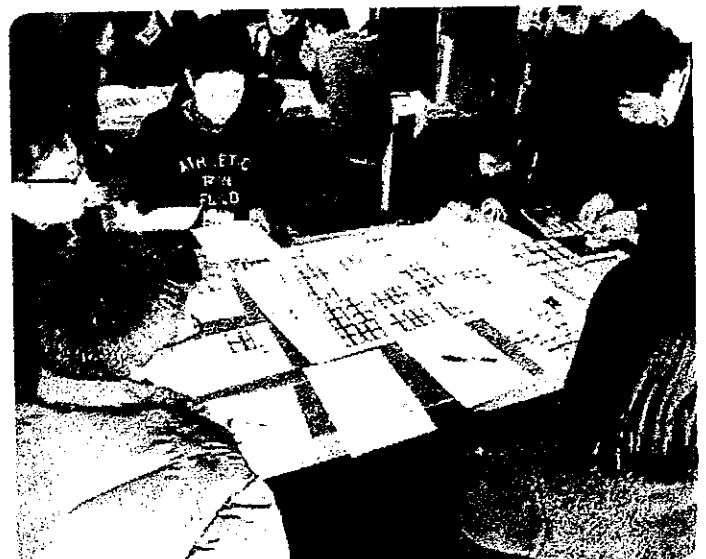
5人から8人程度の班によって、インフルエンザの疑いがある、車椅子を利用している、といった様々な事情を抱えた避難者への対応を考えていきます。

このゲームでの対応に、『正解』はありません。避難所運営に携わる一住民として、最善策を見出す力や不測の事態への対応力を学んでいただけます。

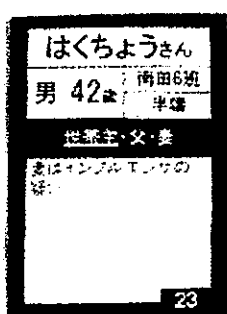
○なぜ『Doはぐ』の体験が必要なの？

大災害発生直後の避難所の運営は、地域住民が協力して行う『共助』の最たるものの1つです。避難所を円滑に運営するためには、その時その場にいる方が、時刻や天気、ライフラインの状況、周辺の被害状況などの条件を理解し、即断即決かつ臨機応変な対応をすることが求められます。

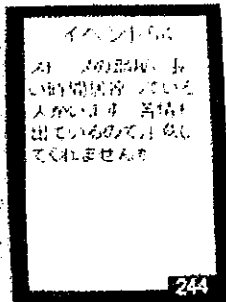
『Doはぐ』ではこのような避難所の状況を図上で体験することができるため、いざというときに対応する力を自然に養うことができます。



Doはぐ体験会の様子



情報提供
これからのゲーム設定です。
このゲームは、避難所の状況を再現するためのものです。実際の避難所とは異なり、ゲームの目的は、避難者の状況を再現することです。ゲームの結果は、実際の避難所の運営とは関係ありません。



Doはぐで使用する3種類のカード